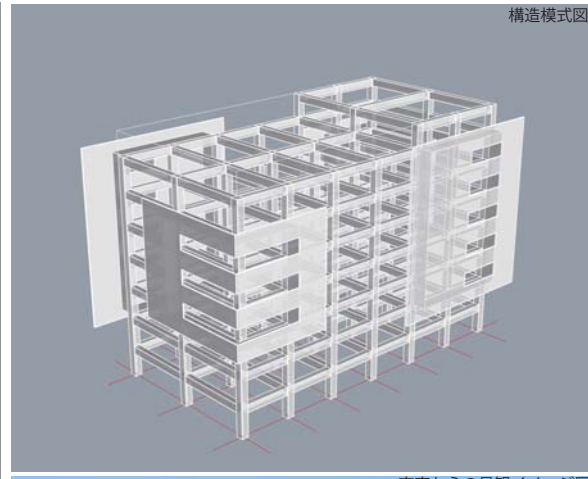


3(4) 評価テーマ (テーマ1「警察機能を発揮させる機能的な施設づくり」、テーマ2「万全な防災対策による安全な施設づくり」、テーマ3「周辺環境と調和した魅力ある公共建築物としての施設づくり」)

Modern modesty



サイズ：20cm×15cm=300cm²



構造模式図



南東からの景観イメージ図

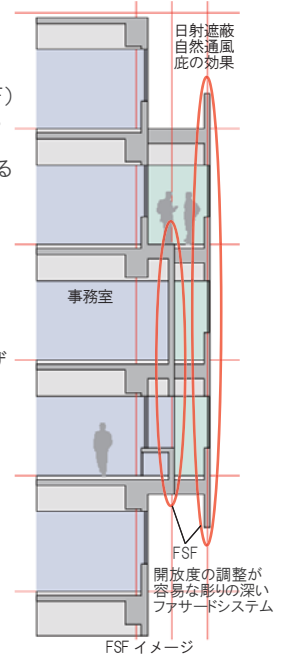


南西からの景観イメージ図

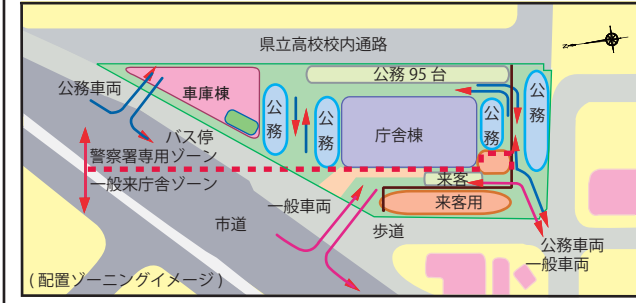
概算工事費		
庁舎棟	建設工事費	1,414,000,000 円
	設備工事費	552,800,000 円
車庫棟		200,200,000 円
外構等(その他付属建物を含む)		61,190,000 円
概算総工事費(税抜き)		2,228,190,000 円

「周辺環境と調和した魅力ある公共建築物としての施設づくり」

- 多くの世代の方に親しまれる魅力ある警察署をめざして
 - ・“modesty”-----慎ましく静かで品格のある建築を目指します。
 - ・フローティングスクリーンファサード(FSF)によって、画一的な庁舎イメージを一新したシンプルでありながら普遍性を持ったデザインは、建物を軽く見せ、明るく暖か来庁者スペースをつくり、多くの世代の方に親しまれる警察署となります。
 - 無理のないシンプルな平面・断面計画であるため、コストを押さえながらもイメージ図そのままの魅力ある建物がつくれます。
 - ・RCラーメンフレームとフローティングスクリーンファサード(FSF)からなるシンプルな建築構成は、実施設計において、部屋によって異なる開放性や秘匿性に応じた開口部のデザインを容易にし、通風・日射・断熱といった環境負荷低減にも貢献します。
- 周囲に圧迫感を与えない建物配置
 - ・三角の敷地端部は通学路入口の隣となるため重要な場所と捉えています。
 - ここに鉄骨造2階建の車庫棟を配置し、空への視線の抜けを確保することで、圧迫感を与えず、車庫棟のデザインにも(FSF)を取り入れることで、庁舎とのデザインの一体化を計り、車庫らしからぬ魅力を感じさせる建物とします。
 - ・庁舎を敷地境界よりセットバックさせ、ほぼ敷地中央に配置することによって、敷地全周に対して十分な空気を確保し、周辺に配慮した配置計画とします。
- 表裏のない周辺環境と調和した警察署
 - ・一般的に建築の姿は機能の問題から、建物ファサードが表面と裏面に分かれやすいものですが、我々は、幹線道路側も教育施設の側も同等に扱い、表裏のないファサードを考えます。どの方向から見ても周囲と調和した建物になり、各階に設けられる室外機置き場、物干し場なども、(FSF)によって美しくデザインすることができます。
 - ・屋上設備設置スペースは周囲から見えないよう配慮します。道場の天井高を5mとすることで生じる屋根面のレベル差を利用した目隠し壁は、シンプルなファサード面を崩すことなく、すっきりとした建築ファサードとなります。
- 地域貢献型の公共建築物(若い建築家の卵に向けて)
 - ・この敷地は建築科のある広島県立広島工業高校の構内道路に面しており、工事を着手して完成までを直近で見る機会のある建物となります。その興味に添えるべく、工事の進捗について構内道路沿いに解りやすく表示していきます。また、シンプルで美しい建築は、生徒の建築に対する興味、関心を掻き立てる公共建築であり続けます。



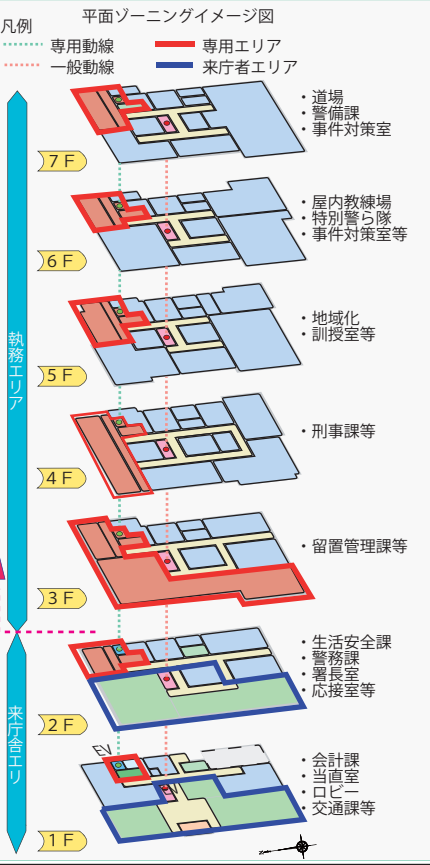
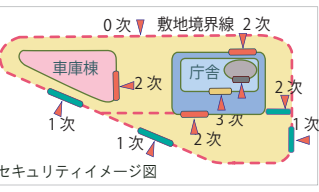
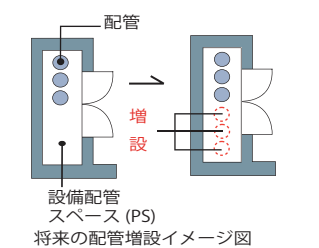
「警察機能を発揮させる機能的な施設づくり」



機能を発揮させるための土地利用計画

- 警察専用ゾーンと一般来庁舎ゾーンの明確な区分
 - ・敷地西側1角を一般来庁者ゾーンとして、来庁者動線と駐車場をまとめて完結させ、他の警察専用ゾーンと明確に区分しています。
 - ・北側の三角形部分に2階建車庫棟を設置。1階建物内に車路を設け、一般車両用の出入口でないことを明確に表現します。大型バスの車庫を含み、車路もバスの通行に支障のないだけの階高を確保します。この位置に車庫棟を配置することにより、庁舎棟とで警察用車両スペースを挟むことができ、一般歩行者からの視線を回避出来ます。一般来庁者用車両の出汐交差点からの進入路は庁舎棟近くに解りやすく設けており、完全に分離されています。出汐交差点方面に出車するには南西角より交差点を利用して出るしか方法がありません。この角では唯一警察車両と一般車両動線が重なるのですが、緊急時にはパトランプ、遮断バー等で一般車の出車を制限できるようにします。

- 一般管理エリアを通過しない護送動線
 - ・被留置者の護送動線は一般管理エリアを通過しません。出入口は県立高校構内道路側に設けており、塀と庁舎に挟まれ他の視線の届かない位置になります。庁舎内も護送エントランスから専用EV、専用階段を用い、被留置者用取調室や留置者管理課事務室等の3次・4次高セキュリティゾーンへ直接アクセスでき、逃走に隠れる場所の無い、且つ時間も短い動線とします。
- フレキシブルで機能的な庁舎棟
 - ・桁行き方向のスパンを10mとし、柱を減らし、将来にわたり間仕切りを変更しやすくしました。機能の変更による模様替え等に簡単に対応でき、建物の長寿命化を図ることができます。また、柱本数を減らすことで、杭本数の削減により工事費を減額でき、イニシャルコストを抑えます。余裕を持った配管スペースとし、改修時の配管ルートを確認することで、改修コストも抑えます。自然エネルギーを取り入れ、FSFにより開口部を必要な所だけ設け、高断熱仕様にする等、環境配慮型の庁舎を目指し、LCCの削減、及びLCCO2の削減を実現します。
- セキュリティゾーン
 - ・敷地境界の塀を、不審者や暴走車両等の侵入を防ぐ0次セキュリティゾーンとして、公用車駐車場や押収車収容スペースを1次セキュリティゾーン、庁舎内通路、トイレ等の共用部分、事務室、会議室、倉庫等を2次セキュリティゾーン、留置管理関係、被留置者の輸送や取り調べを受ける場所、その移動部分を3次セキュリティゾーン、留置者を留置する関係の部屋等を4次セキュリティゾーンとする、4階層に分けたセキュリティラインを組みます。それぞれのセキュリティレベルに応じた施設、入退室管理を行います。
- 機能的で秘匿性、プライバシーを確保した諸室配置
 - ・1階はロビーをはさんで、外来対応のある、会計課と交通課を配置しています。
 - ・2階は同じく外来対応のある警務課と生活安全課を配置し、来庁者の移動できる範囲はこの階までとします。
 - ・3階は留置関連フロアとして、留置管理課及び留置関連エリアを配置しています。
 - ・4階は刑事一課、刑事二課を配置し、そのフロアに取調事件対策室、事情聴取室、鑑識室も配室し、利用勝手のよいフロアとしています。
 - ・5階は地域課、訓授室、地域控室、事件対策室を配置しています。
 - ・6階は特別警ら隊、事件対策室、屋内教練場を配置しています。
 - ・7階は警務課、道場を配置しました。この階は最上階となり、道場部分の階高を上げ、屋根をPCとすることで無柱の大空間を確保します。安全に武道の鍛錬ができます。



「万全な防災対策による安全な施設づくり」

- 自然災害に耐える庁舎
 - ・耐震性Ⅱ類を基準とした構造設計とし、非構造部材・大型居室天井についても十分な安全性を確保します。
 - ・大型台風やゲリラ豪雨、地震時の津波等、に対応するため、耐風圧・耐浪強度や排水計画に余裕を見込んだ設計とします。津波による浸水深さ1m時においても業務を継続できるよう、1階窓の腰高はGLより1.2m以上の高さとし、出入口については高さ1.2mの防潮板を設置できるようにします。
- 災害時にも自立し、機能維持できる庁舎-BCP
 - ・災害時にも継続的な利用ができるように、主要設備については、水没の可能性の無い上階へ設置します。通信機器、防災拠点としての主要機器は万が一にも被災しないよう、床免振システムの導入を検討します。
 - ・受電は2系統からの引き込みに対応し、1週間以上連続運転可能な自家発電設備、72時間運転を維持できる燃料タンクの設置を行います。自家発電設備は断水時も可動する空冷式を採用します。
 - ・災害時に汚水の公共下水道への放流が困難になった場合でも、3日分以上の汚水を貯留できる汚水タンクを確保します。また、署員全員が業務にあたって3日以上利用可能な上水の貯水タンクを準備します。
 - ・屋上に太陽光発電設備を設置し、蓄電機能を持たせます。普段は省エネに貢献し、災害時・停電時には必要な負荷に対応させます。
- 落雷に対応した人にも機器にも安全な庁舎
 - ・落雷にたいして、人命の安全に加え、施設内の重要な通信情報機器の機能が維持できるようにするために、SPD(サージ保護デバイス)を設置します。落雷時の過電圧・過電流が機器に侵入するのを防ぎます。
- 災害対策活動拠点としての庁舎
 - ・災害時には、4階の事件対策室・会議室を災害本部として利用できるように考えます。この部屋には、非常用コンセント、及び情報端末を多数接続可能な環境を整備します。
 - ・5階 訓授室、7階道場は災害時に集結した広域緊急援助隊等の待機場所として利用できるようにします。
 - ・来庁者用駐車場は災害時には緊急車両の駐車場として利用します。大型車両も無理なく入ることができ、玄関ホール前にそのまま寄付き可能です。

